50th ANNIVERSARY of SAGAMIHARA

JAM JOSHIBI ART MUSEUM

相模原市制50周年記念事業 江成常夫写真展

山河風光・ふる里相模川

TSUNEO ENARI Photograph Exhibition 7 JULY—25 JULY. 2004

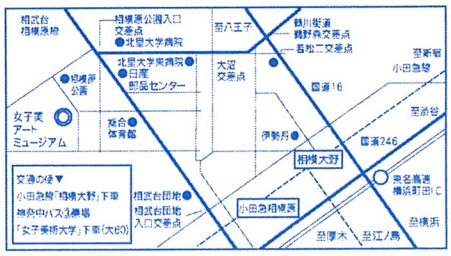
同時特別開催
江成常夫の心象風景
RGB
原色の夢
+The dream of primary color

2004年7月7日(水)── 7月25日(日)

開館時間／午前10時～午後5時（入館は4時30分まで）<会期中無休>
入館料／一般：300円　大学生・高校生：200円(学生証提示)　中学生以下：無料
※65歳以上の方・障害者及びその介護者・ひとり親家庭の方は、証明書の提示で無料になります。

○「プレ写真展」（6/19(土)～6/30(水)）相模川ふれあい科学館にて12点を先行展示）
　※会期中は女子美術大学での本展の「無料案内状」を差し上げます（月曜休館、要入館料）。
○市制50周年記念講演会　江成常夫の写真世界　2004年7月7日（水）午後1時30分～3時まで　先着30名
○作者によるギャラリートーク　2004年7月11日（日）午後2時～3時30分まで
○公園と美術館に行こうキャンペーン　2004年7月11日（日）・18日（日）午前11時～午後3時まで
　※JAM入口に設置してある「チューブ君」<木彫>と記念撮影をした写真を無料で差し上げます。

【主催】相模原市教育委員会（生涯学習課）TEL042-769-8286　【共催】相模原市、学校法人 女子美術大学
【協賛】富士写真フイルム㈱、エプソン販売㈱、㈱ニコン、ニコンカメラ販売㈱、㈱プロラボクリエイト
【後援】朝日新聞横浜総局、神奈川新聞社、相模経済新聞社、産経新聞横浜総局、東京新聞横浜支局、毎日新聞横浜支局
読売新聞横浜支局、㈱テレビ神奈川、㈱エフエムさがみ、相模原市文化協会、相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会
相模川を愛する会、神奈川県、城山町教育委員会、津久井町教育委員会、相模湖町教育委員会、藤野町教育委員会



会 場／女子美術大学　女子美アートミュージアム
〒228-8538神奈川県相模原市麻溝台1900 女子美術大学10号館
小田急線相模大野駅から神奈川中央交通バス「女子美術大学行き」終点下車（約20分）

山河風光・ふる里相模川

市内を流れる相模川沿いの小高い丘に、約1万8千年前の田名向原遺跡がある。この、人の営みの跡が物語るように、相模川は太古の昔から母なる存在だった。平安時代になっての太政官符（公文書）によれば、相模川は鮎が豊潤だったことから「鮎河」の名で呼ばれていた。

時代が変わり、私がまだ幼少だった昭和20年代から30年代にかけて、相模川は水を満々と湛え、川原にはヒバリ、ホウジロ、ヒワ、アオジ、セキレイ、カワセミ、シラサギ、シギといった野鳥が棲息し、沿岸には昔のままの自然が生きていた。

水郷田名に生まれ相模川を遊び場にして育った私は、鮎が解禁になる夏になると、手づくりの釣り竿に毛針を付けた糸を川瀬に流し鮎を釣った。白い太陽が黄金色に染まり、山影に隠れるころ、清流にしか棲まないカジカ蛙が「ケロケロ、フーイフィ・・・」、と愛の声をあげると、あっちからもこっちからも伝わり、まるでカジカの合唱のように聞こえた。

相模川のうちでも田名は水郷の名にふさわしく、風光にも恵まれていた。対岸にはたおやかな三栗山が控え、春に山桜、夏の緑、秋に紅葉、冬の雪は川の流れと相まって、水墨画のような世界を演出してくれた。

そんな川の自然が音をたてて崩れるのは、昭和30年代後半から40年代にかけてである。高度経済成長のもとで河砂利が採取され、河が底を突くと水田までが掘り起こされた。人間は自然とともにあるはずなのに、それにも気づかず、田んぼが潰されると今度は水郷の立役者だった山までが砂利採りの餌食にされ、今では太古からの山が姿を消してしまっている。

それでも相模川は自然の回復に努め、生きてきた。ひところは鮎もすっかり姿を消したが近年は鮎が戻り、漁期には大勢の太公望たちが穴場に竿を並べている。釣り人に加え、相模川は心を洗う憩いの場として、市民はもとより市外からも行楽客を集め、四季折々に賑わいを見せている。

そればかりか相模川は市民の心の拠り所にもなっている。自然との共生は人の心に響き郷土愛はもとより、大きく言えば日本人としてのアイデンティティーをも育むからである。心の糧、かけがえのない相模川の自然を、市民の永劫回帰の場として大事にしていきたい。

平成16年7月

写真家・九州産業大学大学院教授　江 成 常 夫

TSUNEO ENARI BIOGRAPHY

江成 常夫（えなり つねお）

昭和11年相模原生まれ
相模原市田名在住

略歴

昭37	東京経済大学経済学部卒業
昭37～昭49	毎日新聞東京本社勤務
昭49～昭50	フリー写真家として渡米・ニューヨーク滞在
昭53～昭54	渡米・ロサンゼルス滞在
昭62～平 5	相模原市民文化祭審査員
昭53～現	ニッコールクラブ幹事を経て現会長
平元～平10	神奈川県勤労者美術展審査員
平 5～現	土門拳賞選考委員
平 6～平11	九州産業大学大学院教授
平11～現	九州産業大学大学院教授 博士課程教授
平 6～平10	大正大学非常勤講師
平 9～平11	相模原市総合計画懇話会委員
平11～現	相模線魅力アップ写真コンクール審査員
平12～現	フォトシティさがみはら参画

<主な写真集・著作>

「ニューヨークの百家族」（平凡社 昭51）
「花嫁のアメリカ」（講談社 昭56）
「百肖像」（毎日新聞社 昭59）
「シャオハイの満州」（集英社 昭59）
「花嫁のニッポン」（講談社 昭61）
「ニューヨーク日記」（平凡社 平元）
「まぼろし国・満州」（新潮社 平7）
「記憶の光景・十人のヒロシマ」（新潮社 平7）
「山河風光―相模川の四季」（相模経済新聞社 平10）
「花嫁のアメリカ 歳月の風景 1978-1998」（集英社 平12）
「ヒロシマ―万象」（新潮社 平14）

受賞歴

昭52	第27回 日本写真協会新人賞
昭56	第 6回 木村伊兵衛写真賞
昭60	第 4回 土門拳賞
昭60	第52回 毎日広告デザイン賞
平 7	第37回 毎日芸術賞
平13	日本写真協会賞（年度賞）
平13	第50回神奈川文化賞
平13	相模原市民文化彰
平14	紫綬褒章